

めぐみイエス・キリスト教会

2022年3月27日(日) 第四主日礼拝・午前10時
週報「通算第601号」



2022年標題聖句

第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌266「罪、咎を赦され」	p. 418
【交読文】	No.17 詩篇第46篇	p. 892
【賛美Ⅱ】	新聖歌103「わがためイエス君」	p. 143
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲No.1「あなたと共にいつまでも」	
【聖書朗読】	使徒の働き16章1節～5節(新約p. 267上段)	
【礼拝説教】	《テモテ》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」	p. 235
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

※本日の聖書箇所(使徒の働き16章1節～5節)

16:1 それからパウロはデルベに、そしてリステラに行った。すると、そこにテモテという弟子がいた。信者であるユダヤ人女性の子で、父親はギリシア人であった。

16:2 彼は、リステラとイコニオンの兄弟たちの間で評判の良い人であった。

16:3 パウロは、このテモテを連れて行きたかった。それで、その地方にいるユダヤ人たちのために、彼に割礼を受けさせた。彼の父親がギリシア人であることを、皆が知っていたからである。

16:4 彼らは町々を巡り、エルサレムの使徒たちと長老たちが決めた規定を、守るべきものとして人々に伝えた。

16:5 こうして諸教会は信仰を強められ、人数も日ごとに増えていった。

●ポイント1.「デルベ」と「リステラ」とは？

■**デルベ** 小アジア州イコニオン、ピシデヤのアンティオキアに向かう主要道路に近かった町。リステラより南東へ約50キロの位置にあった。パウロは第1回伝道旅行のおり、リステラで迫害された後、この地に来た。

■**リステラ** 南ガラテヤのルカオニヤ地方の町で、イコニオンの南西約40キロにある。テモテの故郷であり、第一回伝道旅行の際に、足のきかない人をいやす奇蹟を行なった。また、パウロが石打ちにされた町である。

●ポイント2.「テモテ」とは？

※**第Ⅱテモテ1章5節「祖母ロイスと母ユニケ」** (新約p.425上段)

1:5 私はあなたのうちにある、偽りのない信仰を思い起こしています。その信仰は、最初あなたの祖母ロイスと母ユニケのうちに宿ったもので、それがあなたのうちにも宿っていると私は確信しています。

●ポイント3. なぜテモテに「割礼」を受けさせたのか？

※**ガラテヤ書2章3節「同労者テトス」** (新約p.375下段)

2:3 しかし、私と一緒にいたテトスでさえ、ギリシア人であったのに、割礼を強いられませんでした。

※**第Ⅰコリント9章19節～22節「すべての人にすべてのもの」**(新約p.339)

9:19 私はだれに対しても自由ですが、より多くの人を獲得するために、すべての人の奴隷になりました。

9:20 ユダヤ人にはユダヤ人のようになりました。ユダヤ人を獲得するためです。律法の下にある人たちには(私自身は律法の下にはいませんが) 律法の下にある者のようになりました。律法の下にある人たちを獲得するためです。

9:21 律法を持たない人たちには(私自身は神の律法を持たない者ではなく、キリストの律法を守る者ですが)律法を持たない者のようになりました。律法を持たない人たちを獲得するためです。

9:22 弱い人たちには、弱い者になりました。弱い人たちを獲得するためです。すべての人に、すべてのものとなりました。何とかして、何人かでも救うためです。

◎先週の礼拝メッセージの概要【第二回伝道旅行への出発】

《第一回教会会議は、聖霊の導きによって終了しました。パウロとバルナバは指導者であるバルサバとシラスを伴って、アンティオキアに戻って来ました。そして教会員の前で、その手紙が朗読されたのです。教会からの最初のこの手紙こそが、後にパウロが書き記すことになる様々な手紙に通じて行くのです。「二人は、しばらく滞在した後、兄弟たちの平安のあいさつに送られて、自分たちを遣わした人々の所に帰って行った。」とありますが、実は省略された34節には、『しかし、シラスはそこにとどまることを決めた。』と書かれています。

さて、数日が経った後、パウロはバルナバに、「主の言葉を宣べ伝えたすべての町で、兄弟たちがどうしているか、また行って見て来よう。」と話します。その第一の理由は、教会会議の結論を、第一回伝道旅行の時に、新しく出来た教会にも伝えるべきであり、また教会と任命した長老たちの安否を確認する必要があったからです。

バルナバは、エルサレムから連れ戻した従兄弟のヨハネ・マルコと一緒に連れて行くことをパウロに提案しました。しかしパウロは、パンフィリアで一行から離れて働きに同行しなかった者は、連れて行かないほうがよいと考えたのです。マルコは、あまりの伝道旅行の厳しさに嫌気がさしたことは事実ですし、主のしもべとしての覚悟も、まだ出来ていなかったのです。この件で、バルナバとパウロは対立することになります。私は、ここにも聖霊の働きと神様の深い摂理があったことを感じています。バルナバの故郷はキプロス島でした。よって、故郷のキプロス伝道は、まさにバルナバに相応しい使命であったからです。

つまり、主イエスは伝道旅行チームを、あえて二手に分けられたのです。そしてこの伝道旅行を通して、ヨハネ・マルコは整えられ、全く変えられることになります。まさしく「すべてのことは益となる」のです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は、4月3日(日)午後2時からとなります。また4月10日(日)の礼拝は、通常通り午前10時からとなります。ご注意ください。